




(第4班)

養父市 ワークショップ

 養父市 Yabu City

グンゼ養父工場跡地活用
プレゼンテーション



考えられる課題と方策

The image features a light gray background with a central title in bold black Japanese characters. Below the title, there are several overlapping, wavy lines in red, blue, black, and green, creating a decorative horizontal band across the lower half of the page.

考えられる課題と方策

養父市の認知度向上

中長期的な移住への
ハードルの軽減

教育水準の向上

地域住民との交流

地産地消の促進

考えられるメリット /

- 養父市の認知度向上
- 中長期的な移住へのハードルの軽減
- 教育水準の向上
- 地産地消の促進
- 地域住民との交流

短所の保全△
長所の強化○

移住定住促進と
不安要素の軽減

ターゲット

1.アウトドアの活動に興味のある人

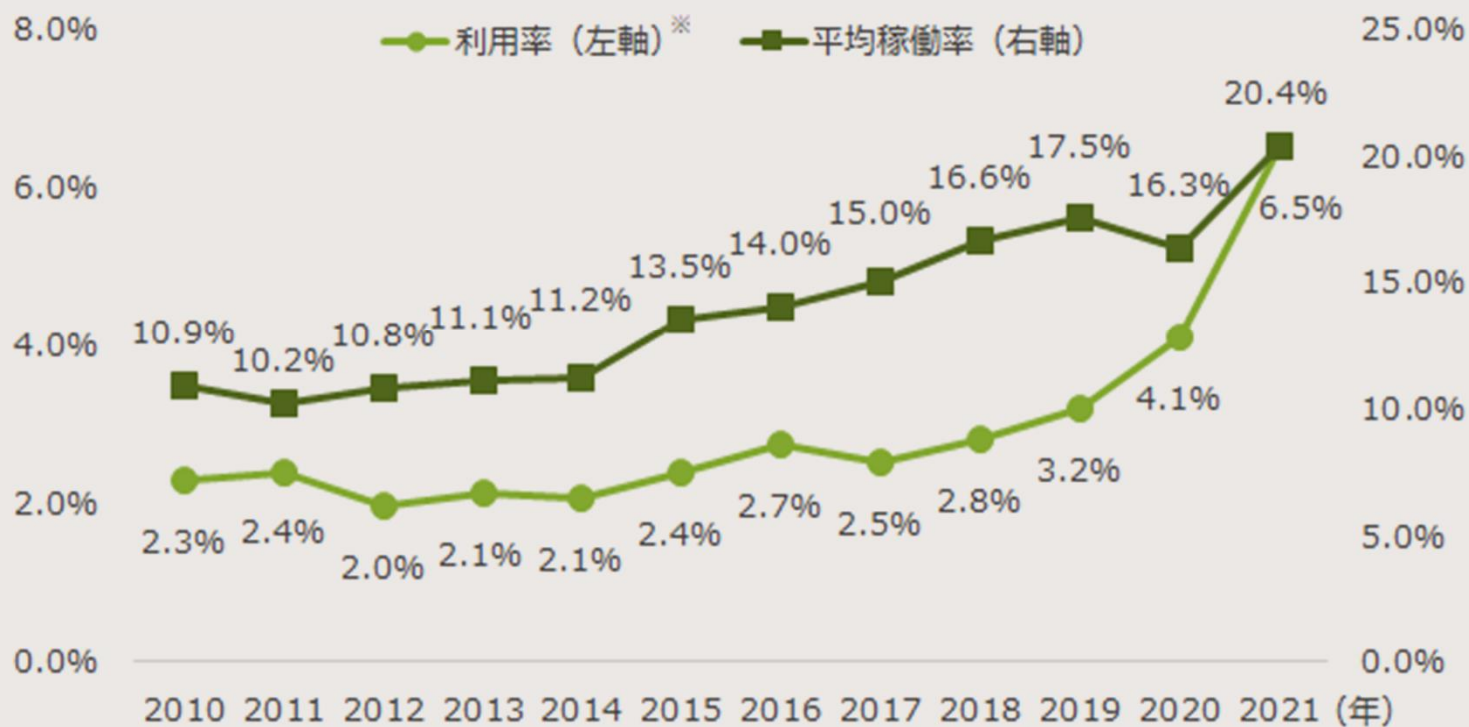
2.若年層

3.中高生



アウトドアの 需要拡大

長所の強化



※延べ旅行者数全体に占めるキャンプ場を利用した延べ旅行者数の割合として算出。

引用：観光庁「旅行・観光消費動向調査」および日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書2022」

事業スキーム

< 農業 >

農地

(地元の方と共同で耕す)

管理：地元住民 + 高校生

< 商業 >

グランピング マルシェ レストラン

農地等で作られた周辺作物を
中心に集め地産地消促進へ

△マルシェ：直売
△レストラン：地元産野菜など

< 住居 >

短中長期的運営

(賃貸→持ち家)

短期
(グランピング施設)
中期
(移住用住宅)
長期
(空き家活用)

< 教育 > 農業高校独自の活動(Ex. ○○)




農業



教育

新たな新規事業拡大



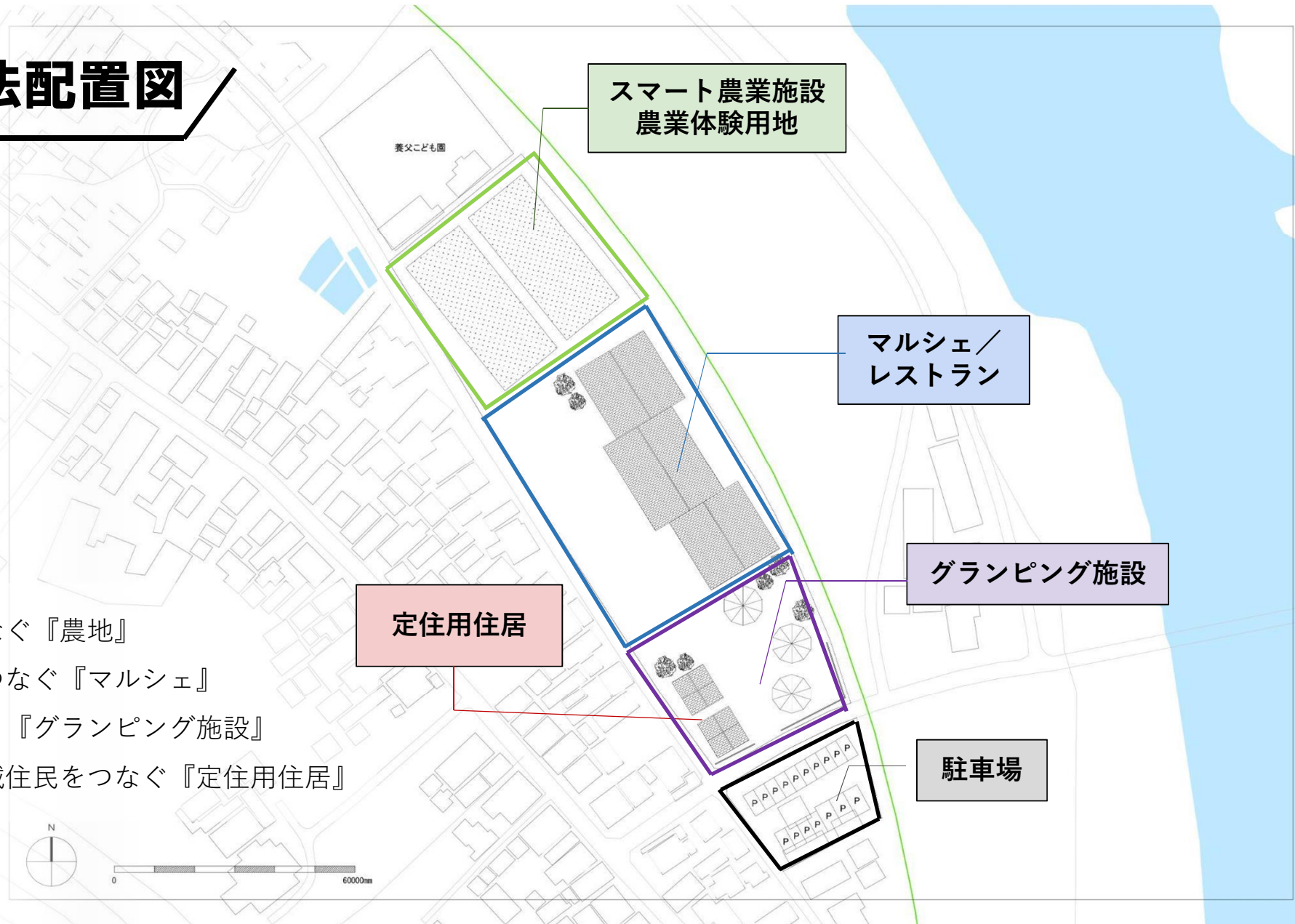
商業



住居



土地利用方法配置図



スマート農業施設
農業体験用地

マルシェ/
レストラン

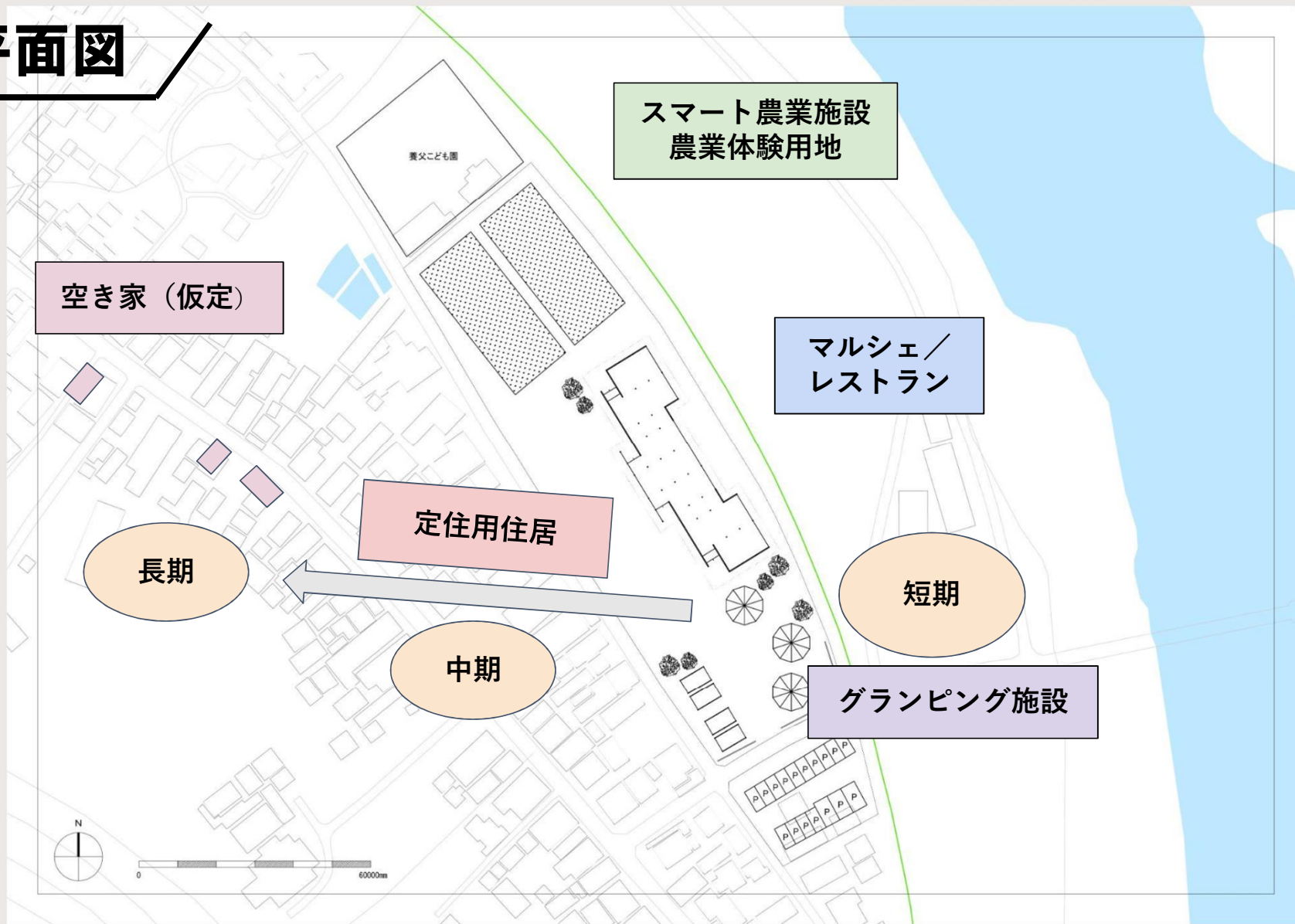
グランピング施設

定住用住居

駐車場

- 子どもと農業をつなぐ『農地』
- 空間と地域住民をつなぐ『マルシェ』
- 養父を知ってもらう『グランピング施設』
- 移住・定住者と地域住民をつなぐ『定住用住居』

土地利用方平面図



詳細説明

空き家（仮定）

定住用住居

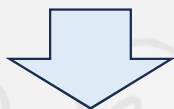
マルシェ／レストラン

グランピング施設

中・長期

短期

住民との積極的な交流
教育環境等のサポート体制説明



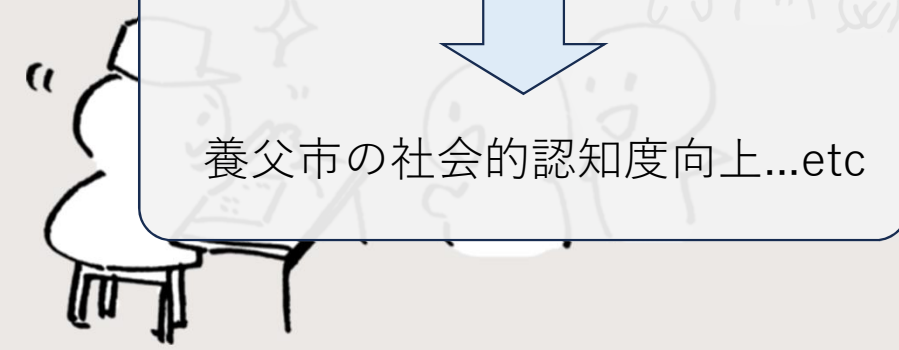
移住定住へのハードル軽減

地域の自然・特産品・文化の交流



養父市の社会的認知度向上...etc

わ
「感動！」



こども園

農場

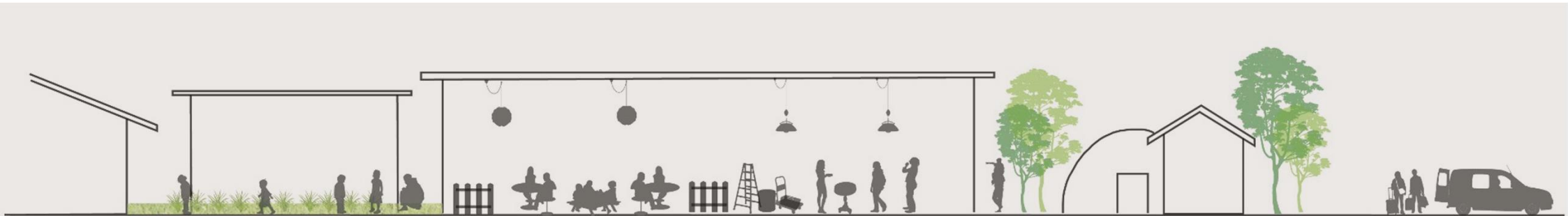
マルシェ

グランピング
受付施設

宿泊施設

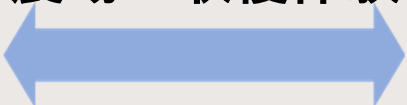
駐車場





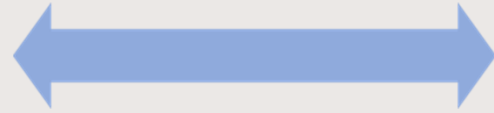
農場の収穫体験

子ども



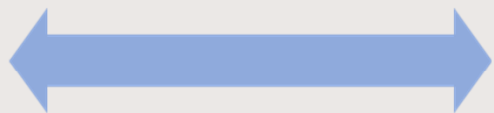
農場生産・マルシェの商品開発

地元の
農業高校生



農場生産・マルシェでの購入

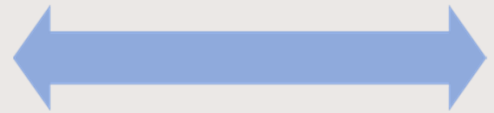
地元住民



農場の収穫体験

グランピングによる移住のきっかけ作り

来訪者



土地利用方法配置図



兵庫県立但馬農業高等学校



総合畜産科

- ・ 地域社会の発展や改善に貢献できる農業の担い手の育成
- ・ 豚の繁殖肥育一貫経営、銘柄豚（バナナパイナップーク）の生産および販売を促進
- ・ 安全でおいしい銘柄鶏（但農どり）の生産および販売を促進

みのりと食科

- ・ 食品加工分野の知識・技能を学習し、
6次産業化を推進するとともに「但農ブランド」商品を開発
- ・ 農産物の研究と地域への協力を行い、情報・技術発信基地としての役割を担う。
- ・ 養父市と連携し、農業の魅力を伝える「農学セミナー」の充実を図る。

みのりと食科

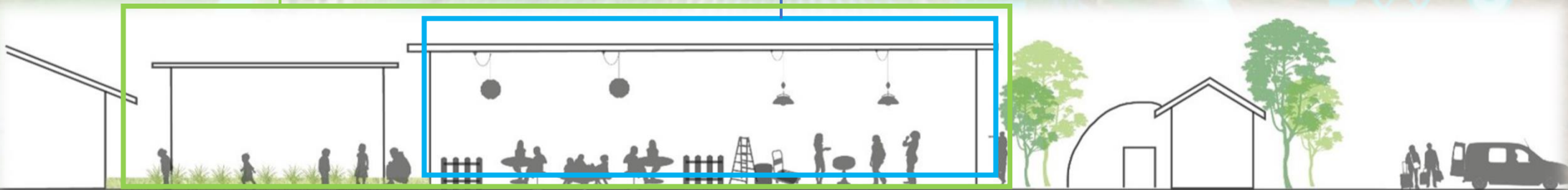
- ・スマート農業の共同管理栽培の実施
- ・スマート農業での特産品・但農ブランド開発
- ・情報発信拠点としての活動
- ・レストラン等での栽培品の販売、料理での使用
- ・加工商品化し6次産業化へ繋げる

総合畜産科

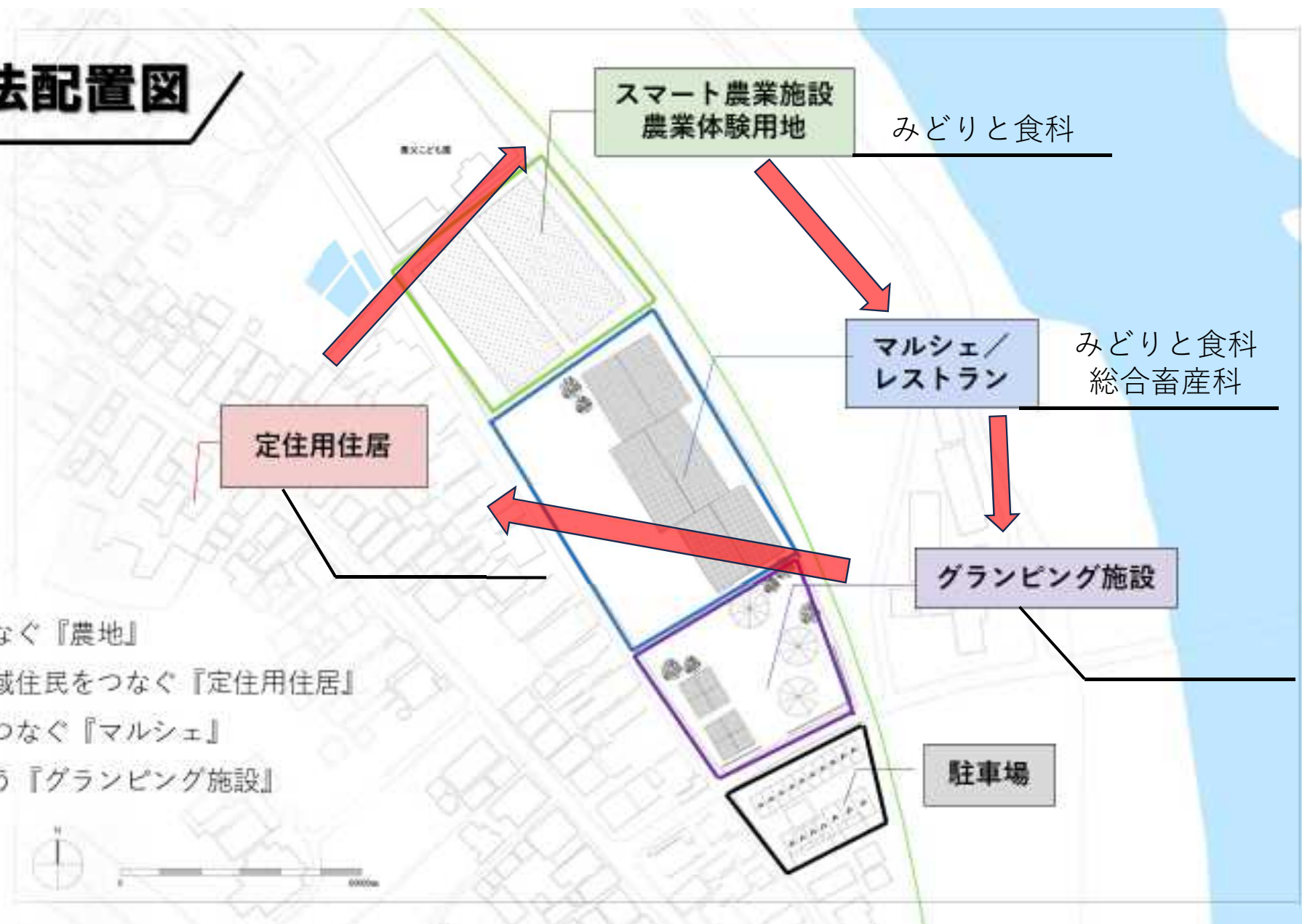
- ・銘柄豚のレストラン等での実践販売
- ・銘柄鶏（但農どり）の実践販売
- ・レストラン等での栽培品の販売、料理での使用
- ・加工商品化し6次産業化へ繋げる
- ・情報発信拠点としての活動



- ・教育水準向上
- ・独自のブランド化確立
- ・地産地消促進
- ・地域住民との広い交流
- ・早期の社会活動への参入
- ・農業特区の利点活用



土地利用方法配置図



- 子どもと農業をつなぐ『農地』
- 移住・定住者と地域住民をつなぐ『定住用住居』
- 空間と地域住民をつなぐ『マルシェ』
- 養父を知ってもらう『グランピング施設』

みどりと食科

みどりと食科
総合畜産科

駐車場

ご清聴
ありがとうございました

